

郷土をこよなく愛し、愛されて、精一杯生き抜いた三宅武夫は、1903年（明治36年）、恵那郡静波村（現・明智町）の貧しい旧家に生まれた。

岐阜県師範学校（現・岐阜大学）卒業後、中津町（現・中津川市）で小学校訓導として勤務しながら、「文部省書道科教員検定試験（文検）」に合格。その後、東京の比田井天来の指導を受けた。土曜日の夜行で出かけ、日曜日に先生のお宅に着いて指導を受けると、再び夜行に乗って月曜日朝帰津。その足で勤務校へ駆けつけるといふ書の修行を重ねる。これを自ら『土上月下行』とよんだが、こうしたひたむきな姿勢を終生貫く。

1935年（昭和10年）四国の愛媛県師範学校教諭（書道）として松山に赴任し、三輪田米山の作品を発掘するなど書道の研究活動に大きな業績を残す。

戦時下の昭和16年、母校の岐阜県師範学校に転勤した。岐阜県の書道界をリードしておられた方々との交流はそのころから始まった。戦地に出かけられる教え子に、そっと「死ぬなよ」と声をかけたことは有名である。

戦後、新学制となり母校の大学昇格に尽力したが自らは初任地の中津川に帰った。昭和23年、中津町立第二中学校の校長に迎えられ、初代校長を13年間勤めた。極めてユニークな学校経営に取り組み、教職員・生徒達からはもちろん、保護者からも卒業生

からも厚い信頼を得て、斬新な業績を重ね、地域の教育界のリーダーでもあった。

* * *

退職後は中央公民館長、中津川市教育委員長などを歴任した。公民館長としては、一組毎に式辞を書き改めて独自の様式の結婚式を執り行なう。染め物等の講習会では、受講者と苦楽を共にしながら自らの技量をも高める。聖徳短大（岐阜市）の講師としては「幼児教育」の授業で『創作童話』や『ちぎり絵』による紙芝居づくりに取り組み、学生の潜在能力を引き出すとともに自らの能力を極めていった。これらの活動を通して、現役時代から提唱していた“教育は共育”の理論と実践を、より深いものとした。

1990年（平成2年）、86歳にて没。自らの墓誌に「中津川の地に 共育の根を 張り度い」と残した。最後まで地域を愛し、愛され慕われ、多彩で豊かな、幸せな生涯を送った。

* * *

主な著書に、『鞆鞆』（ぶらんこ）・『おらあ先生になる』・『みる・きく・つくる』等があり、没後、恵那教育研究所の手により、手書き文字とちぎり絵による『絵入りお地蔵様』・『絵入り狐膏薬』が出版された。

自宅の書棚を埋めつくした500冊を超す自らの手

作り本は、没後、恵那教育研究所・日本大正村を経て、岐阜県歴史資料館に寄託された。この時期に編纂された『岐阜県教育史（資料編）』に何件もの原稿が掲載された。

2003年、後記3会場にて“生誕百年記念展”が開催された。この書作品複製は、これらの展覧会に展示され好評であった作品の中から選ばれたものである。

大正村会場では、書のほかにも「臈纈染め作品」（扇面・帯）や手作りの「能面」等が展示され、多方面での活躍を示すものとして注目された。



晩年の書齋で

◇三宅武夫 略歴◇

1903	明治 36 年	岐阜県恵那郡静波村東方馬木に生まれる
1918	大正 7	東方小学校高等科卒業、代用教員
1920	9	岐阜県師範学校入学
1924	13	岐阜県師範学校卒業 岐阜県恵那郡中津町中津尋常高等小学校訓導
1928	昭和 3	文部省書道科教員検定試験（文検）合格
		比田井天来先生に師事
1929	4	恵那郡中津町 山中はる と結婚
1935	10	愛媛県師範学校に転出
1941	16	岐阜県師範学校に転出
1944	19	岐阜師範学校教授
1947	22	岐阜師範学校の大学昇格運動に尽力
1948	23	岐阜県恵那郡中津町立第二中学校長に転出
1958	33	恵那教育会議活動に参画（事務局長）
1961	36	中津川市立第二中学校長退職
		中津川市中津公民館長
1965	40	公民館長退職 嘱託
1970	45	中津川市教育委員長
1972	47	聖徳学園短期大学（岐阜市）講師
		中津川教育文化展（教育百年）参加
1974	49	聖徳学園短期大学講師退職
		中津川教育市民会議活動（議長）
1976	51	『鞆鞆』（ぶらんこ）出版
1978	53	中津川市教育委員長退任
1980	55	『おらあ先生になる』出版
1983	58	『みる、きく、つくる』出版
1990	平成 2	没
2003	15	三宅武夫生誕百年記念展 明智町／大正ロマン館
		中津川市／アートランド
		自分の書づくりを楽しむつどい展・特別展示 岐阜県美術館